

中津学園の見どころ！推しどころ！7つの作品！

2026. 3. 3

史料室長 河崎洋充

はじめに

建て替えの期間中に多数の遺品が発見されました。多くは、写真や海外からの絵葉書で、いずれも祐正と祐三が留守家族に宛てたものでした。

それ以外には、祐三のライフマスク（ブロンズ製）も光徳寺に秘蔵されていました。これらの歴史的遺物に加えて新しい園舎にふさわしい展示物が完成していますので、学園にお越しの際には園舎共々ご覧いただければ幸いです。尚、ライフマスクにつきましては通常の展示は、しておりません。



新設された7つの作品



- ① 新設の正門門扉（大住豊氏・デザイン制作）
東京で建築向制作金物の製造・施工を主にされ、オーダーメイドで鉄製（螺旋）階段等のデザインをされている大住豊氏の作品です。
豊氏は、祐正の四女にあたる正子さんの長男で、祐正の孫にあたります。

- ② 移設された祐三の生誕地碑

以前は、園内奥に設置していましたが、新園舎建設に合わせて正門前に移設しました。

今まで知らなかった人の目に留まり、ここ中津が生誕の地であることを知ってもらうきっかけになればと考えています。



- ③ 門から玄関までのプロムナードには、祐三の絵画展示をしています。4枚の大型パネルに5枚の絵画を展示しています。作品は、15枚製作しているので随時、展示替えをしていく予定です。
外部からも見えるように夜には、スポットライトを設置し工夫も施しております。

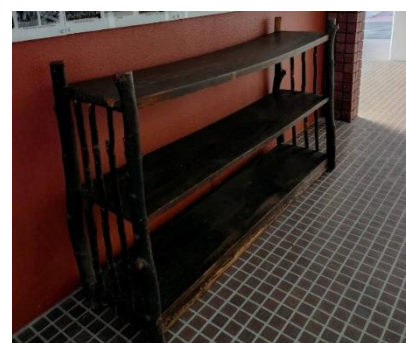
- ④ 年表前に設置してある祐正自作の飾り棚

大住豊氏の実家に保存されていた、祐正自作の木製の飾り棚です。

脚に使用されている桜の枝は、豊中のカントリーハウスに植わっていた桜の樹です。

祐正が、娘のために作ってプレゼントしたとの、逸話が住家に伝わっていました。

そこで、門扉を設置していただいたゆかりで「この棚は、是非、中津学園で使ってください」と譲り受けた100年越しの里帰りの棚となりました。



- ⑤ 善隣館の百年を一覧できる写真版の年表
園舎玄関前の壁に、写真をふんだんに取り
入れた年表を掲示しました。
善隣館 100 年の歴史が一目で分かります。



<仕上げに豆炭で煉瓦を燃やした様子>



- ⑥ 非常時の火床を兼ねた防災煉瓦ベンチを近畿大学准教授の寺川先生と近畿大
学生が製作しました。
南海トラフ大地震等を想定した災害時の備品の一つとして準備しました。
非常時には、ベンチストーブとして使用する火床です。
普段は、休憩用のベンチとして活用し、お墓参りに来られた方や見学者の
皆様に使用していただきます。
折を見て子どもたちと火起こし体験を予定しています。



<善隣館の全容>



<前中津学園園舎>



<前中津学園園舎模型>

- ⑦ 施設の歴史的変遷に関する調査から
近代セツルメントの歴史伝承として図面から3D化し、初代と戦後の
善隣館の全容の建物模型と前中津学園園舎の模型が近畿大学建築科の
学生により作成されました。

上記の新しい作品を見学には是非、お越しく下さい。

職員一同、心よりお待ちしております。